※令和４年度以降入学生用

学校番号	2102

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	（学）音楽演習	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の４つの分野を学習します。
学習の到達度は、授業で配布するワークシートや実技テストで評価します。
音楽の学習は、実際にやってみて、試してみてこそ価値あるものとなり、そうして感性が豊かになります。
音楽が、生涯ずっと、みなさんの心の支えとなり、生きていく力となることを願っています。

２　学習の到達目標

音楽に関する学習を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
中間	「器楽」 ギター ・古時計 ・きらきら星 ・グリーンスリーブス	基礎的な奏法を身につける。 常に音色を意識し、曲想を生かして演奏を工夫する。	a：音色を意識し、表現したいことを伝えるための技能を身につけている。 b：曲想を生かして主体的に表現を工夫している。 c：楽曲にふさわしい音色を考え表現することに興味・関心をもっている。	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト
	「歌唱」 日本のポップス ・未来予想図Ⅱ ・海の声 ・story ・やさしさで溢れるように	基礎的な発声法や発音の仕方を身につける。 歌詞の内容と、音楽を形づくっている要素に着目して演奏する	a：表現したいことを伝えるための歌唱技能を身につけている。 b：歌詞の内容と、音楽を形づくっている要素の働きを感じて表現を工夫している。 c：歌詞の内容と、音楽を形づくっている要素とのかかわりに興味・関心をもっている。	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト
	「創作」 ・メロディーの雰囲気を変化させよう ・演奏スタイルを変化させよう	創作の活動に関心をもち、意欲的・主体的に取り組む。 創作表現の技能を身につける。	a：音色を意識し、表現したいことを伝えるための技能を身につけている。 b：音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して旋律を創作しようとしている。 c：音楽を形づくっている要素に関心をもち、意欲的に創作しようとしている。	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト
後期	「歌唱」 ドイツ歌曲 ・Heidenröslein ヴェルナー作曲 シューベルト作曲	２曲を比べ、同じ歌詞による曲想の違いをつかむ。 ドイツ語の発音の特徴を生かして歌詞の内容に応じた表現を工夫する。	a：表現したいことを伝えるための歌唱技能を身につけている。 b：曲想を把握して主体的に表現を工夫している。 c：２曲の曲想の違いや、歌詞の内容と音楽を形づくっている要素の関連を積極的に感じ取り、伝えようとしている。	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト	演奏の 聴取 観察 実技 テスト

※令和４年度以降入学生用

	「器楽」 キーボード ・明日への扉 ・空も飛べるはず ・少年時代	基礎的な奏法を身につける。 常に音色を意識し、曲想を生かして演奏を工夫する。	a: 音色を意識し、表現したいことを伝えるための技能を身につけている。 b: 曲想を生かして主体的に表現を工夫している。 c: 楽曲にふさわしい音色を考え表現することに興味・関心をもっている。	演奏の聴取 観察 実技 テスト	演奏の聴取 観察 実技 テスト	演奏の聴取 観察 実技 テスト
	「創作」 リズムパターン創作	理論で学習した音符等を元にリズム譜の作曲を行い、曲想にふさわしい楽器を選んでグループ活動を行う。 リズム感と協調性を磨く。	a: 音色を意識し、表現したいことを伝えるための技能を身につけている。 b: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して旋律を創作をしようとしている。 c: 音楽を形づくっている要素に関心をもち、意欲的に創作しようとしている。	演奏の聴取 観察 実技 テスト	演奏の聴取 観察 実技 テスト	演奏の聴取 観察 実技 テスト
	「鑑賞」 ・オペラ『カルメン』 ・動物の謝肉祭	人間の生活と音楽の関わりに着目しながら、楽曲の歴史的背景や時代の特徴を感じ取る。 演奏形態や歴史・時代の背景、音楽の諸要素を根拠として、音楽の良さを感受し、言葉で表す。	a: 聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけて、楽曲の特徴を言葉で表している。 c: 時代の変化における音楽の特徴に、興味・関心をもち、積極的に感じ取っている。	ワークシート 観察		ワークシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度